

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

1. 今年度の結果

今年度の「全国学力・学習状況調査」では、中学校で英語の調査が加わった他、これまで国語、算数、数学でA問題（主として知識に関する問題）、B問題（主として活用に関する問題）に分かれていた調査が1つにまとめられ、小中学校併せて全5教科の調査が行われた。

本市の状況としては、小学校の国語において、全国・県の平均正答率を上回った。それ以外の4教科は、全国・県の平均正答率を下回ったが、その差は0.6～2.8ポイント以内に収まった。また、小学校国語・算数、中学校数学の3教科において、全国・県の平均正答率との差が昨年度より縮まり向上した。中学校英語は、「話すこと」の調査結果が参考値のため、点数化されていないが、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計正答率は、全国・県平均正答率よりマイナス1ポイントとなった。

無解答率については、昨年度の無解答率と比べると、小学校国語ではほぼ横ばい、算数では改善がみられた。中学校では国語、数学ともに無解答率が高くなっている。

令和元年度中学3年生が小学6年生のときの結果と比べてみると、国語、数学ともに全国・県との平均正答率の差が縮まっている。

このように成果は多くあるものの、小・中学校ともに、課題が残るものもあり、今後も改善に向けた取組を継続していく必要がある。

2. 教科における経年比較

【小学校 平均正答率】

（単位：％）

教科	市・県・国	H 2 9 年度	市と県・全国との 平均正答率の差	H 3 0 年度	市と県・全国との 平均正答率の差	教科	市・県・国	令和元年度	市と県・全国との 平均正答率の差				
国語 A	亀山市	72.9		68.2		国語	亀山市	65.0					
	三重県	73.6	-0.7	70.1	-1.9								
	全国	74.8	-1.9	70.7	-2.5		三重県	64.0	1.0				
国語 B	亀山市	53.8		49.6						全国	63.8	1.2	
	三重県	57.0	-3.2	53.6	-4.0								
	全国	57.5	-3.7	54.7	-5.1		算数	亀山市	66.0				
算数 A	亀山市	75.0		60.3		三重県					67.0	-1.0	
	三重県	77.4	-2.4	62.8	-2.5								
	全国	78.6	-3.6	63.5	-3.2	全国		66.6	-0.6				
算数 B	亀山市	42.4		46.9						理科	亀山市	56.8	
	三重県	44.6	-2.2	50.1	-3.2								
	全国	45.9	-3.5	51.5	-4.6	全国	60.3	-3.5					

小学校における県平均正答率との比較

- ・今年度の市と県の平均正答率の差を比べると、国語、算数ともに、県平均並みになった。

国語	市：65.0%	県：64.0%	差：+1.0ポイント
算数	市：66.0%	県：67.0%	差：-1.0ポイント

- ・今年度の市と県の領域別平均正答率を比べると、8領域中、3領域で県の平均正答率を上回っている。

国語	「書くこと」	市：55.8%	県：54.8%	差：+1.0ポイント
国語	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	市：55.0%	県：53.4%	差：+1.6ポイント
算数	「数と計算」	市：64.6%	県：64.3%	差：+0.3ポイント

- ・昨年度と今年度の市と県の平均正答率の差を比べると、8領域中、7領域で改善が見られた。

(市と県の平均正答率の差の推移 平成30年度→令和元年度)

国語	「話すこと・聞くこと」	(A) -0.9ポイント	→	-0.5ポイント
		(B) -2.9ポイント		
国語	「書くこと」	(A) -1.1ポイント	→	+1.0ポイント
		(B) -4.9ポイント		
国語	「読むこと」	(A) -1.7ポイント	→	-1.5ポイント
		(B) -3.8ポイント		
国語	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	(A) -2.1ポイント	→	+1.6ポイント
算数	「数と計算」	(A) -3.1ポイント	→	+0.3ポイント
		(B) -3.9ポイント		
算数	「図形」	(A) -2.9ポイント	→	-1.1ポイント
		(B) -2.0ポイント		
算数	「数量関係」	(A) -3.5ポイント	→	-0.9ポイント
		(B) -3.3ポイント		

- ・無解答率は、国語で横ばい、算数で改善傾向にある。

(平成30年度→令和元年度)

国語A：	3.8%	→	国語	4.3%
国語B：	5.1%			
算数A：	1.8%	→	算数	2.1%
算数B：	9.2%			

小学校における課題

- ・県の平均正答率との差で有意な差とされている5ポイント差以上を取り上げると、次の領域において改善が不十分な状況が見られる。

算数の「量と測定」の領域

【中学校 平均正答率】

(単位：％)

教科	市・県・国	H 2 9 年度	市と県・全国との 平均正答率の差	H 3 0 年度	市と県・全国との 平均正答率の差	教科	市・県・国	令和元年度	市と県・全国との 平均正答率の差
国語 A	亀山市	72.3		73.6		国語	亀山市	70.0	
	三重県	76.9	-4.6	75.3	-1.7		三重県	72.0	-2.0
	全国	77.4	-5.1	76.1	-2.5		全国	72.8	-2.8
国語 B	亀山市	63.3		59.7		数学	亀山市	58.0	
	三重県	70.7	-7.4	59.7	0.0		三重県	60.0	-2.0
	全国	72.2	-8.9	61.2	-1.5		全国	59.8	-1.8
数学 A	亀山市	57.3		60.0		英語	亀山市	55.0	
	三重県	65.3	-8.0	66.6	-6.6		三重県	56.0	-1.0
	全国	64.6	-7.3	66.1	-6.1		全国	56.0	-1.0
数学 B	亀山市	40.6		41.4					
	三重県	47.3	-6.7	45.7	-4.3				
	全国	48.1	-7.5	46.9	-5.5				
理科	亀山市			63.7					
	三重県			66.0	-2.3				
	全国			66.1	-2.4				

*「聞く」「読む」「書く」

中学校における県平均正答率との比較

- 今年度の市と県の平均正答率を比べると、その差は、全ての教科で2ポイント以内に収まっている。

国 語 市：70.0％ 県：72.0％ 差：－2.0ポイント

数 学 市：58.0％ 県：60.0％ 差：－2.0ポイント

英 語 市：55.0％ 県：56.0％ 差：－1.0ポイント

- 今年度の市と県の領域別平均正答率を比べると、11領域中、3領域で県の平均正答率と同値もしくは上回っている。

国語 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

市：66.8％ 県：65.6％ 差：＋1.2ポイント

数学 「資料の活用」 市：57.1％ 県：57.1％ 差： 0 ポイント

英語 「聞くこと」 市：70.1％ 県：67.1％ 差：＋3.0ポイント

- 昨年度と今年度の市と県の平均正答率の差を比べると、8領域中（英語を除く）、2領域で差が縮まっている。(市と県の平均正答率の差の推移 平成30年度→令和元年度)

数学 「関数」

数学A －6.8ポイント

→ －1.5ポイント

数学B －4.5ポイント

数学 「資料の活用」

数学A －7.7ポイント

→ 0 ポイント

数学B －5.3ポイント

- ・無解答率は、全教科で高くなっている。
(平成30年度→令和元年度、英語は令和元年のみ)

国語A： 2.5% → 国語 2.9%
 国語B： 2.3%
 数学A： 3.4% → 数学 8.0%
 数学B： 10.3%
 英語： 6.1%

中学校における課題

- ・県の平均正答率との差で有意な差とされている5ポイント以上差のある領域はない。しかし、4ポイント以上差のある以下の領域については改善を要する状況が見られる。
数学 「数と式」
- ・全教科で昨年度より無解答率が高くなっている状況が見られる。

【平成28年度小学6年生と令和元年度中学3年生調査の平均正答率】

小学校H28年度				中学校R元年度			
教科	市・県・国	平均正答率	市と県・全国との平均正答率の差	教科	市・県・国	平均正答率	市と県・全国との平均正答率の差
国語A	亀山市	68.0		国語	亀山市	70.0	
	三重県	71.7	-3.7		三重県	72.0	-2.0
	全国	72.9	-4.9		全国	72.8	-2.8
国語B	亀山市	52.2					
	三重県	58.1	-5.9				
	全国	57.8	-5.6				
算数A	亀山市	75.5		数学	亀山市	58.0	
	三重県	78.3	-2.8		三重県	60.0	-2.0
	全国	77.6	-2.1		全国	59.8	-1.8
算数B	亀山市	43.5					
	三重県	47.1	-3.6				
	全国	47.2	-3.7				

同一生徒での比較

- ・平成28年度小学6年生で受けた調査と令和元年度中学3年生が受けた調査の結果を比べると、市と県の平均正答率の差は、国語、数学ともに差が縮まっている。
(市と県の平均正答率の差の推移 平成28年度〈小6〉→令和元年度〈中3〉)
 国語A -3.7% → -2.0%
 国語B -5.9%
 数学A -2.8% → -2.0%
 数学B -3.6%

3. 質問紙に見られる特徴

【小学校 児童質問紙】

○平成30年度と比べ、肯定的な回答の割合の伸びが大きかったものは、以下の項目である。

(単位: %)

質問事項		平成 30年度	令和 元年度	令和元年度と 平成30年度の差	
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	市	79.1	81.4	2.3	↑
	県	75.1	80.9		
今住んでいる地域の行事に参加していますか	市	75.2	78.9	3.7	↑
	県	66.7	74.1		
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	市	41.1	44.9	3.8	↑
	県	46	52.5		
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	市	61.9	66.2	4.3	↑
	県	64.3	76.4		
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	市	73.5	74.9	1.4	↑
	県	75.6	80		
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	市	78.7	82	3.3	↑
	県	80.1	84.3		

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童の割合は、県平均より上回り、昨年度より増加している。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合は、県平均より4.8ポイント上回り、昨年度より増加した。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」児童の割合は、県平均よりは下回っているものの、昨年度より増加した。
- ・「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」児童、「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」児童、及び「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」児童の割合は、いずれも県平均を下回っているが、昨年度より肯定的な回答が増加している。

○平成30年度と比べ、肯定的な回答の割合が大きく下がったものは、以下の項目である。

(単位: %)

質問事項		平成 30年度	令和 元年度	令和元年度と 平成30年度の差	
自分には、よいところがあると思いますか	市	83.1	74.2	-8.9	↓
	県	83.4	80.1		
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	市	90.1	83.6	-6.5	↓
	県	86.4	87.8		
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	市	75.4	69.5	-5.9	↓
	県	76.4	73.4		
算数の授業の内容はよく分かりますか	市	87.5	81.3	-6.2	↓
	県	85.5	85.7		
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	市	81.4	77.6	-3.8	↓
	県	78.8	82.4		

- ・「自分によいところがあると思う」児童、「先生が自分のよいところを認めてくれると思っている」児童及び、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている」児童の割合が、減少している。
- ・昨年度県平均より上回っていた「算数の授業の内容がよく分かる」児童、「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」児童の割合は、県平均を下回り、昨年度より肯定的な回答が減少した。

【中学校 生徒質問紙】

○平成30年度と比べ、肯定的な回答の割合の伸びが大きかったものは以下の項目である。(単位: %)

質問事項		平成 30年度	令和 元年度	令和元年度と平成30年度との差	
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	市	71.5	75.9	4.4	↑
	県	74	76.6		
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	市	88.4	92	3.6	↑
	県	89.6	92.3		
自分には、よいところがあると思いますか	市	75.8	76.4	0.6	↑
	県	79.9	74.9		
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日60分以上勉強する生徒の割合。	市	62.1	67.3	5.2	↑
	県	67.5	67.5		
新聞を読んでいますか	市	9.3	12.8	3.5	↑
	県	14.3	13.4		
今住んでいる地域の行事に参加していますか	市	70.8	74.4	3.6	↑
	県	49.6	56.8		
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	市	37.3	43.3	6	↑
	県	38	40.2		
生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	市	66.4	70.3	3.9	↑
	県	76.5	74.2		
数学の勉強は好きですか	市	50	61.5	11.5	↑
	県	54.4	60.2		
数学の授業の内容はよく分かりますか	市	67.3	77.2	9.9	↑
	県	75	79.1		

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている、起きている」生徒の割合は、県平均を下回っているものの、昨年度より増加した。
- ・「自分に、よいところがあると思う」生徒の割合は、昨年度より増加し、県平均を上回った。
- ・「平日に学校の授業以外に60分以上勉強する」生徒の割合は、昨年度より5.2ポイント増加した。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」生徒、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」生徒の割合は、ともに県平均より上回り、昨年度より増加した。
- ・「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」生徒の割合は、県平均を下回っているが、昨年度より増加した。

- ・「数学の好きな」生徒の割合は、昨年度より 11.5 ポイント増加し、県平均を上回った。また、「数学の授業の授業の内容がよく分かる」生徒の割合は県平均を下回っているが、昨年度より 9.9 ポイント増加した。

○平成30年度と比べ、肯定的な回答の割合が大きく下がったものは、以下の項目である。

(単位: %)

質問事項		平成 30年度	令和 元年度	令和元年度と平成 30年度との差	
将来の夢や目標を持っていますか	市	73.1	70.6	-2.5	↓
	県	75.5	69.5		
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	市	95.2	92.5	-2.7	↓
	県	95.5	94.8		
数学の勉強は大切だと思いますか	市	87.9	85.1	-2.8	↓
	県	84.4	86.1		
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	市	77.9	75.7	-2.2	↓
	県	74.8	78.8		

- ・「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は、昨年度より減少しているが県平均は上回っている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」生徒の割合は、昨年度より減少し、県平均を下回った。
- ・「数学の勉強は大切だと思う」生徒の割合、「数学の授業で学習したことが将来社会に出たとき役に立つと思っている」生徒の割合は、ともに県平均を下回り減少した。

4. 課題の解決に向けた今後の取組について

本年度の全国学力・学習状況調査の結果、課題と考えられる点については、次のとおり解決に向けて取組を進める。

(1) 学力面での課題について

小学校については、算数における「量と測定」の領域に課題が見られる。測定の技能を身につけるだけでなく、量感を豊かにする学習活動や、なぜそのようになるのかを考える過程を組み込んでいくことが必要である。また、「図形の面積の求め方の説明を言葉や数を用いて記述する」「複数の資料から特徴や傾向を読み取り、関連付けて考え判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」などの学習を取り入れていくことも有効だと考えられる。

中学校については、数学における、「数と式」の領域に課題が見られる。特に「数と式」では、連立二元一次方程式を解く技能において課題が見られた。授業で学習している内容だけでなく、それまでに学習した内容についても補充学習や家庭学習等で、反復練習を行うことが必要だと考えられる。また、生徒のつまづきに対する把握と丁寧な支援が必要である。

また、全教科で無解答率が昨年度より高くなっていることも課題である。今年度、大きく出題の傾向が変わったことも考えられるが、特に記述問題の無解答率が高かつ

た。更に「書くことを軸とする学力向上の取組」を進めるとともに、「諦めずにいろいろな問題解決方法を考えること」「最後まで粘り強く問題に取り組むこと」などを身につけさせていくことが必要である。

(2) 児童生徒質問紙に見られる課題について

小学校の課題である「自分によいところがあると思う」児童が減少している点については、教科学習や特別活動などさまざまな場面において、一人ひとりが活躍でき、達成感や成就感を味わうことができるよう取組を充実させる必要がある。また、一人ひとりが良さを認め合い大切にされていると感じる仲間づくり・人権教育の充実が求められる。「先生に認められていると感じている」児童が減少していることについては、学級の友達との間で話し合う活動を取り入れ自分の考えが深まったり、広がったりする場面を設定し、どの子どもでもできたことが認められる学級づくりや教師の児童に対する丁寧な支援・指導の体制が求められる。

「算数の授業の内容の理解」に関する課題については、目の前の児童に「何を身に付けさせるか」を明確にして、それを確実に身に付けさせる授業づくり・授業改善を徹底すること、児童一人ひとりのつまずきを把握し、授業の中での支援を確実にする必要がある。また、「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」傾向が減少している点については、学級の中で出された複数の解法の中から、どの解法が簡単に解くことができるかを考え合う機会を設け、簡単に解く解法を導き出す有用性をすべての児童に実感させる必要がある。

中学校の課題である「将来の夢や目標を持っている」生徒が減少している点については、道徳科の授業や職場体験学習等を通して、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる必要がある。また、地域や社会の活動に参加したり、ボランティア活動に参加したりしたことを学校等において紹介し達成感を感じさせることで、「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒を育むことにつながると考えられる。

「数学の勉強が大切と思う」生徒、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」生徒が減少している点については、数学的活動の楽しさや数学が普段の生活に関わっていることが実感できる授業展開の工夫や、教材選定・課題設定の工夫が求められる。また、日常の事象を数理的に処理することや、日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察することを授業に取り入れていく必要がある。

このような様々な課題が見られる中で、今後も教員の授業力向上、授業改善と児童・生徒のつまずきの把握、そして、それに対する丁寧な支援を進めていかなければならない。各校では、校長、教頭が校内でリーダーシップを発揮し、各校の実態や課題の具体的な把握、「亀山市学力向上推進計画〔改訂版〕」に沿った授業改善の取組、家庭と連携した児童・生徒の学習習慣の定着、放課後等の補充学習の実施による基礎学力の定着に向けた確実な取組を継続していく必要がある。また、教育委員会として、市内の現状を踏まえ、新たな「亀山市学力向上推進計画」の策定作業を進めるとともに、県や市の指導主事、教職員指導員等を派遣することにより教員の指導力の向上を図るなどの支援に努めていく。